授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ	1	必修	1年　前期	演習	全専任教員

授業内容	・小集団でスポーツやレクリエーション、校外学習を行う。 ・実習前学習としてのボランティア活動を指導する。 ・一人ひとりの学生の学習や生活についてきめ細かく指導・援助する。
授業方法	全ゼミ合同での指導、ゼミごとに分かれての活動、個人面談等、そのときどきの課題に即した形態で実施する。
到達目標	1、幼児教育学科での学び方や生活の仕方がわかり実践できる。 2、担任や他のゼミ生との信頼関係を基にして、自主的・積極的に活動できる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	オリエンテーション	
2	短大での学び方	テキスト第１章を読む。
3	個人面談　①	「将来設計のための自己開発プログラム」記入
4	個人面談　②	
5	スポーツ大会練習　①	
6	スポーツ大会練習　②	
7	特別授業期間（ボランティア）について　①	
8	特別授業期間（ボランティア）について　②	ボランティア活動の依頼をし「届」に記入する。
9	ボランティア活動報告	ボランティア活動報告書を書く。
10	ゼミ別活動　①	各ゼミ担任の指示に従う。
11	ゼミ別活動　②	各ゼミ担任の指示に従う。
12	ゼミ別活動　③	各ゼミ担任の指示に従う。
13	前期学習のまとめのために	
14	秋桜祭にむけて	
15	まとめ（夏期学習予定の確認）	「ボランティア活動届」記入

成績評価	取り組みの姿勢等平常点で評価する。
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』生活技術教育研究会編　ななみ書房
参考書等	

学生へのメッセージ・履修上の留意点

授業計画には、全ゼミで共通に行う内容を示している。実施回を変更する場合がある。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探求ゼミ	1	必修	1年　後期	演習	全専任教員

授業内容	・学園祭に取り組む他、担当教員および学生の自由意思により、さまざまな学習活動をする。 ・教育実習・保育実習の準備、教育実習の振り返りを行い、実習指導を補う。 ・学習や生活、進路指導を行う。
授業方法	ゼミごとの活動を基本とする。 全体での進路ガイダンスも実施する。
到達目標	進路選択も見据えながら、自己の課題はなにか、自己を高めていくためにはどのようにすればよいのかを考察し実行できる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	夏期休暇中の課題についての報告	報告書等を準備する。
2	秋桜祭にむけて　①	パフォーマンスの準備をする。
3	秋桜祭にむけて　②	パフォーマンスの練習や修正をする。
4	秋桜祭にむけて　③	遊びコーナーの準備をする。
5	教育実習にむけて　①	手遊びや絵本のよみきかせを準備する。
6	教育実習にむけて　②	手遊びや絵本のよみきかせを準備する。
7	教育実習振り返り	
8	ゼミ別活動　①	各ゼミ担任の指示に従う。
9	ゼミ別活動　②	各ゼミ担任の指示に従う。
10	ゼミ別活動　③	各ゼミ担任の指示に従う。
11	進路ガイダンス　①	
12	進路ガイダンス　②	進路希望アンケートに記入する。
13	保育実習に向けて　①	部分実習の準備をする。
14	保育実習に向けて　②	部分実習の準備をする。
15	まとめ（春期の学習について）	

成績評価	取り組みの姿勢等平常点で評価する。
テキスト	なし
参考書等	

学生へのメッセージ・履修上の留意点

授業は2月で終わるが、新年度開始まで、担当教員が進路等の相談・指導を行う。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現演習	1	必修	1年　前期	演習	田中　愛

授業内容	社会人として、特に保育現場で求められるさまざまな表現の力を身につけることをねらいとする。また、実習において戸惑うことがないよう、電話のかけ方からお礼状を出すところまで、ポイントを学び、実践的に練習する。適切な敬語も使えるように訓練する。
授業方法	実習時における園の先生方への自己紹介、子どもへの自己紹介、子どもへのイベント等の説明など、ロープレを用いて練習する。 漢字テスト、見たものを文章にする、お礼状を書く、などの文章表現における訓練を行う。
到達目標	保育現場で使われる漢字や表現について、的確に使用できるようになる。また、子どもや園の先生方の前でも臆することなく表現活動ができるよう、基礎を身につける。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	ガイダンス　漢字テスト	漢字テストの勉強
2	電話のかけ方について	実習依頼の電話の内容について考える
3	スピーチの基礎	効果的なスピーチのポイントを考える
4	自己紹介の実践　実習先の先生方への自己紹介	自己紹介の内容を考える
5	自己紹介の実践　子どもへの自己紹介①	自己紹介の内容を考え、グッズも用意する
6	自己紹介の実践　子どもへの自己紹介②	自己紹介の内容を考え、グッズも用意する
7	敬語―丁寧語・尊敬語	丁寧語・尊敬語について調べる
8	敬語―謙譲語	謙譲語について調べる
9	手紙の書き方①　園への実習お礼状	手紙の書き方について調べる
10	手紙の書き方②　園への実習お礼状	実習園へのお礼状の内容を考える
11	子どもへの行事等の説明のポイント	保育者が園で子どもにする説明には何があるか考える
12	子どもへの行事の説明①	テーマを決め、説明できるよう練習する
13	子どもへの行事の説明②	テーマを決め、説明できるよう練習する
14	見たものを文章にする	効果的な書き方を考えてくる
15	意見文を書く	感想文との違いを考えてくる

成績評価	漢字テスト・発表・提出物　80% 授業への取り組み　20%
テキスト	プリントを配布する
参考書等	荒木晶子ほか『自己表現力の教室　大学で教える「話し方」「書き方」』（情報センター出版局）

学生へのメッセージ・履修上の留意点

人前で話すことに抵抗のある人もいると思います。しかし、その場の取り決めごとやポイントを知り、練習の回数を重ねることで慣れていくものです。失敗を恐れず思い切って表現してみてください。しっかり事前準備をして授業に臨んでください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会人基礎力演習	1	必修	1年　前期	演習	清水 淳子

授業内容	職場や地域社会で多様な人と関わりながら仕事をするために必要な、社会人としての心構え、社会人基礎力、ビジネスマナーを習得・体得します。
授業方法	知識は講義形式で理解し、行動で表すことによって評価されるものについては、ワークやトレーニングを通して体得します。 初回と指示する日は「スーツ」で受講し、好印象を持たれる身だしなみと振る舞いを体得します。
到達目標	1、社会人と学生との違いを理解し、基本的な心得を「行動」で表すことができる。 2、実習先、就職活動、就職後の職場で求められる「ビジネスマナー」を体得する。 3、目標を達成するための「PDCA」と、正確で安全な仕事につながる「仕事の基本」を習得する。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	社会＆社会人とは、受講ルールの目的と内容	スーツを準備し、P.34 ～ 43 を読んで身だしなみを整える。
2	社会人基礎力とは、自己認識と行動改革課題設定	事前学習シート読み、指示された内容を記入する。
3	社会人としての心構え、序列と行動、行動管理	P.22 ～ 30、48 ～ 49、92 ～ 93 を読み、疑問点に印をつける。
4	タイムマネジメント、「PDCA サイクル」の回し方	事前学習シートを読み、指示された内容を記入する。
5	社会人としてのエチケット、印象の自己チェック	P.32 ～ 33、44 ～ 47、52 ～ 53 を読み、自己紹介の準備をする。
6	好印象を与えるビジネスマナーと立ち居振る舞い	P.80 ～ 85、88 ～ 89 を読み、疑問点に印をつける。
7	言葉遣いと敬語、接遇用語、接遇表現	P.68 ～ 77 を読み、疑問点に印をつける。
8	報告・連絡・相談、指示の受け方（1）	P.54 ～ 65 を読み、疑問点に印をつける。
9	指示の受け方（2）、ワーク	事前学習シートを読み、指示された内容を記入する。
10	電話応対（1）かけ方、受け方、取り次ぎ方	P.104 ～ 117 を読み、疑問点に印をつける。
11	電話応対（2）ケース別応対、来客応対（1）受付	P.118 ～ 119、122 ～ 130、86 ～ 87 を読み、疑問点に印を。
12	来客応対（2）案内～お見送り、訪問のマナー	P.88 ～ 102 を読み、疑問点に印をつける。
13	ビジネス文書のマナー、文書管理	P.132 ～ 152 を読み、疑問点に印をつける。
14	おつきあいのマナー（冠婚葬祭など）	P。154 ～ 165,168 ～ 176 を読み、疑問点に印をつける。
15	まとめと総括	「エピローグ」を読み、授業で作成できるよう準備する。

成績評価	受講（社会人）のルール遵守、事前学習などの提出物、受講態度50% 定期試験での成績50%
テキスト	『ゼロから教えて　ビジネスマナー』著者：松本昌子（かんき出版） 事前学習シート、資料、ワークシートは授業で配布します。
参考書等	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎―講義・実習・生活のマナーを学ぶ』（生活技術教育研究会みなみ書房）

学生へのメッセージ・履修上の留意点

希望する職業に就き、幸せな社会人人生を送るための「オンとオフ」の切り替え方と、社会人に求められる「行動」を身につけてください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅰ	1	必修	1年　前期	演習	齋藤 紀江

授業内容	情報の基礎知識、インターネット、メールなどの大学生として知識とモラルある使用方法の習得、また、レポート、論文などを作成する際に必用な基本的な著作権、肖像権、引用について理解をしながら、文書作成能力を養う事をねらいとする。
授業方法	一人一台のパソコンを使用し、マイクロソフト社のWord2010を使用して文章作成の演習を行う、また、インターネット、メール、についても、各法律を理解しながら実際に演習する。
到達目標	1、ワードを使用し、レポート・論文が作成できる。 2、文章作成において、法律を順守した内容を作成できる。 3、インターネット、メールなどの利用を情報モラルに即しての使用ができる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	PC 基本操作・タイピングの練習	キーボード入力を練習しておく
2	コンピュータの基礎と Windows	情報倫理ハンドブックを読んでおく
3	Word　文書の作成（1）	2-2 まで読んでおく
4	Word　文書の作成（2）	
5	Word　印刷とページ設定	2-3 まで読んでおく
6	情報倫理（1）	情報倫理ハンドブックを読んでおく
7	Word　表の作成	2-4 まで読んでおく
8	Word　文書の編集	2-5 まで読んでおく
9	情報倫理（2）	情報倫理 Web テストをおこなっておく
10	タイピングチェックと練習問題演習	ブラインドタッチの基本を練習しておく
11	表現力アップ（1）	2-6 まで読んでおく
12	表現力アップ（2）	
13	長文サポート（1）	2-7 まで読んでおく
14	長文サポート（2）	
15	まとめ、レベルチェック	教科書の練習問題を解いておく

成績評価	授業態度　50% 試験成績　50%
テキスト	実教出版　30 時間アカデミック　情報リテラシー Office2010 noa 出版　情報倫理 Web テスト＋情報倫理ハンドブック（セット）
参考書等	

学生へのメッセージ・履修上の留意点

日頃から、インターネット上のモラル、文章表現力、著作権など関心をもって新聞やネット情報などに触れるよう心掛けてください。情報関連を志望する学生は、Excel演習・コンピュータグラフィック・情報機器論・情報サービス演習・ITパスポート・Webデザイン検定・データベース演習の内容も必要スキルとなってきます。あわせて履修してください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅱ	1	選択必修 (幼免必修)	1年　後期	演習	齋藤 紀江

授業内容	マイクロソフト社のExcelを使用して、表計算およびデータベース基礎を楽手する。 高校までの計算のためのExcelではなく、さまざまな使用方法や効率よい入力方法、社会で使用されている関数などの知識を演習を通して習得する。
授業方法	一人一台のパソコンを使用し、マイクロソフト社のエクセル２０１０を使用して表計算、図形描画、グラフ、簡単なデータベースをテキストを読み課題と演習問題を解きながら学習していく。
到達目標	1、必要に応じた分析しやすい表が作成できる。 2、図、グラフを使用して、ビジュアル表現ができる。 3、簡単なデータベースが作成できる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	Excel 基礎の復習	直接入力全角入力をキーボードで切り替える練習をしておく
2	表の編集機能（1）	STEP 1～2 を予習・復習をしておく
3	表の編集機能（2）	
4	印刷機能	
5	Excel 基礎レベルチェック	情報基礎演習Ⅰテキストを学習しておく
6	グラフの作成（1）	STEP3 の予習・復習をしておく
7	グラフの作成（2）	
8	シート・ブックの活用	STEP4 の予習・復習をしておく
9	さまざまな分析方法（1）	
10	さまざまな分析方法（2）	
11	グラフィックの利用	STEP5 の予習をしておく
12	目的に応じた関数利用（1）	STEP6 の予習・復習をしておく
13	目的に応じた関数利用（2）	
14	Excel 分析と関数レベルチェック	情報基礎演習Ⅰテキストを学習しておく
15	まとめ	1～14 回までの復習をしておく

成績評価	授業態度　40% 各章問題成績　60%
テキスト	noa出版　繰り返して慣れる!完全マスター Excel2010　練習問題全353題【NESS付】 情報基礎演習Ⅰで使用した教科書
参考書等	

学生へのメッセージ・履修上の留意点

社会で使用されている経済用語や単位などが教科書に掲載されています。必ず事前に教科書を読み、何を求めようとしているのか理解してからExcelの表を作成してください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保健体育	2	選択 (幼・保必修)	2年　後期	講義	清水 幸子

授業内容	自己の体力や健康について振り返りながら、心身ともに健康で豊かな生活を送るための理解を深める。また、今後のからだの変化や生活習慣病の予防、行政の取組、身体活動量の現状と目標について学ぶ。
授業方法	講義形式で行なう。また、テーマや課題によってはグループによる話し合いを行なう。 活動量計を用いた簡易測定も実施する。
到達目標	1、生涯にわたり健全で豊かな生活を送るために、自らが積極的に健康やスポーツについて考え、適切な習慣形成につなげることができる。 2、スポーツを安全に、楽しく、継続的に実施することができる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	オリエンテーション	シラバスを参照しておくこと。
2	健康と体力①（健康問題と政策）	最近の健康問題について調べておくこと。
3	健康と体力②（健康に関連した体力トレーニング）	普段どのくらい動いているか調べておくこと。
4	健康と運動①（身体の構造・機能と運動）	身体の構造について調べておくこと。
5	健康と運動②（身体の発育発達と運動）	発育発達について調べておくこと。
6	健康と運動③（身体の加齢変化と運動）	加齢による変化を振り返っておくこと。
7	健康と運動④（生活習慣病予防と運動）	生活習慣病について調べておくこと。
8	（中間）まとめ	活動量の確認をしておくこと。
9	ストレスと健康①（ストレスと環境）	ストレス解消法について考えておくこと。
10	ストレスと健康②（ストレスの対処法）	ストレスの対処法について調べておくこと。
11	健康生活の実現に向けて（健康と栄養）	日頃の食事について振り返っておくこと。
12	健康生活の実現に向けて（健康と運動・休養）	日頃の睡眠時間について調べておくこと。
13	健康生活の実現に向けて（運動のすすめ）	運動経験を振り返っておくこと。
14	授業の整理	配布資料やノートを確認しておくこと。
15	まとめ	配布資料やノートをまとめておくこと。

成績評価	授業への取り組み50% 発表および課題レポート（身体活動量チェックシート、レスポンスカード、レポート）50%
テキスト	推奨教材［ポケット活動量計（WALK-NOTE JOG+ENERGYMETER WZ560:セイコー）］ ※推奨教材については追って連絡する。
参考書等	健康と運動の科学（大修館書店）

学生へのメッセージ・履修上の留意点

保育者の仕事は何といっても健康が第一。まずは、自分の健康管理ができるよう学んでいきましょう。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生涯スポーツ	1	必修	1年　前期	実技	清水 幸子

授業内容	スポーツを通してそれぞれの種目特性を探り、技術レベルを高める。またゲームに必要な戦術、ルールなどの理解を深めながら、ゲーム本来の楽しさやグループで行なう楽しさを体験する。そして実践を通して、体力の向上や健康の増進を図ることをねらいとする。
授業方法	種目によっては、レベル別に課題を設定し進めていく。 視聴覚教材を使用し、ルールや戦術についての理解を深めていく。
到達目標	1、スポーツの知識や技術向上だけではなく、対人コミュニケーションがより積極的に図ることができる。 2、学生が在学中のみならず、卒業後も継続してスポーツを楽しみながら健康づくりができるようなる。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	履修ガイダンス：受講上の諸注意など	シラバスにて内容を確認しておく。
2	ラケットスポーツ実践①	ルールについて調べておく。
3	ラケットスポーツ実践②	ルールについて調べておく。
4	ラケットスポーツ実践③	学んだ技術について各自確認しておく。
5	ラケットスポーツ実践④	学んだ技術について各自確認しておく。
6	ラケットスポーツ実践⑤	学んだ技術について各自確認しておく。
7	ラケットスポーツ実践⑥	学んだ技術について各自確認しておく。
8	ラケットスポーツ実践⑦（まとめ）	学んだ技術について各自確認しておく。
9	集団スポーツ①	ルールについて調べておく。
10	集団スポーツ②	ルールについて調べておく。
11	集団スポーツ③	学んだ技術について各自確認しておく。
12	集団スポーツ④	学んだ技術について各自確認しておく。
13	集団スポーツ⑤	学んだ技術について各自確認しておく。
14	集団スポーツ⑥	学んだ技術について各自確認しておく。
15	集団スポーツ⑦（まとめ）	学んだ技術について各自確認しておく。

成績評価	授業への取り組み　50% 技能の向上　30% 活動ノートの提出　20%
テキスト	なし
参考書等	必要に応じて資料を配布する

学生へのメッセージ・履修上の留意点

運動のできる服装、体育館シューズを準備してください。
各自水分補給用の飲み物を持参してください。
実施種目により授業場所の変更があります。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本国憲法	2	選択 (幼免必修)	2年　後期	講義	赤川　理

授業内容	日本国憲法についての基礎的な知識を正しく体系的に修得することを通して、立憲主義という考え方に対する理解を深め、法的なものの見方や考え方を身につけることをねらいとする。
授業方法	日本国憲法について、講義形式で理解する。授業中に課題に取り組んでもらうことがある。また、現代の日本社会が抱える憲法に関する問題も取りあげながら進める予定である。
到達目標	1、日本国憲法についての基礎的な知識を正しく体系的に修得する。 2、立憲主義という考え方に対する理解を深める。 3、法的なものの見方や考え方を身につける。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	ガイダンス・子どもの人権	テキスト Theme 1 を読む。
2	外国人の権利	テキスト Theme 2 を読む。
3	プライバシー権・自己決定権	テキスト Theme 3 と Theme 4 を読む。
4	法の下の平等	テキスト Theme 5 と Theme 6 を読む。
5	信教の自由	テキスト Theme 7 を読む。
6	表現の自由	テキスト Theme 8 と Theme 9 を読む。
7	営業の自由・生存権	テキスト Theme 10 と Theme 11 を読む。
8	教育権	テキスト Theme 12 を読む。
9	死刑制度	テキスト Theme 13 を読む。
10	天皇・平和主義	テキスト Theme 14 と Theme 15 を読む。
11	国会	テキスト Theme 16 と Theme 17 を読む。
12	内閣	テキスト Theme 18 を読む。
13	裁判所・司法審査制	テキスト Theme 19 と Theme 20 を読む。
14	地方自治・改憲の可能性	テキスト Theme 21 と Theme 22 を読む。
15	まとめ	全体の復習をする。

成績評価	期末試験　55%、授業ごとの課題　45%で評価する。
テキスト	初宿正典　高橋正俊　米沢広一　棟居快行　著　『いちばんやさしい憲法入門』【第4版補訂版】 有斐閣　2014年
参考書等	初宿正典　大沢秀介　高橋正俊　常本照樹　高井裕之　編著　『目で見る憲法』【第4版】 有斐閣　2011年

学生へのメッセージ・履修上の留意点

授業にはテキストを必ず持参してください。
予習・復習が必要です。授業を批判的に聞いてください。
分からないことがあったら、そのままにせず、授業後などに質問してください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Oral English Ⅰ・Ⅱ	各1	Ⅰ-必修 Ⅱ-選択 (幼免必修)	1年 Ⅰ-前期 Ⅱ-後期	演習	北原 アンドレア

授業内容	The course will use a textbook to build basic structures, giving students confidence to express themselves. Extra material in the form of storyboards, music, games and picture books will be used throughout the course to give students tools to use themselves as teachers. The emphasis will be on communication in English that is fun to use and learn.
到達目標	This course aims to give students a good base in English oral communication. Students will feel confident and comfortable using English in a variety of different situations. They will be able to communicate ideas to others, especially children, in a practical and simple way.

授業計画

The course will follow the textbook in sequence, with the addition of extra material appropriate to the theme.
Wk.1 Orientation/Self Introduction
Wk.2- Wk.14 Progressive Work through the Text Book
Also including extra activities and child related games.
Wk.15 Review

成績評価	Students will be assessed on their work throughout the semester and their attendace.
テキスト	Side by Side Student Book 1 Side by Side Student Workbook
参考書等	Students must always bring a dictionary to class. Other material will be provided by the teacher.

学生へのメッセージ・履修上の留意点

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
自分を知る	1	選択	1年　前期	演習	小濱 知実

授業内容	学力ではない自分の力（能力・資質・強み・弱みなど）を分析・診断・把握します。学生生活、就職活動や社会人生活を送る上で必要な基礎力を養い、そのプロセスをワークやゲームを用いて実践します。コミュニケーション力（「考える」「聴く」「話す」「情報収集・識別」）を身につけながら、社会、組織（チーム）、他者及び自分自身への敏感な視点を養います。
授業方法	講義とワークショップで進めます。「学ぶ」「考える」「気づく」「実践する」ことの繰り返しです。ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、ブレーンストーミング等、様々な演習を実践します。
到達目標	1、自立性（精神的・生活的・社会的）の向上することができる 2、社会に役立つ人材に育つための基礎力を習得することができる 3、「人間関係形成」を実践し、「社会に向き合う力」を獲得することができる 4、主体性や協調性を身に着けることができる

	授業計画	事前の学習 （事後の学習は授業時に指示）
1	オリエンテーション　アイスブレイク、他己紹介	当日の朝刊を読む
2	自分を知る①	あこがれを整理する
3	「わたしの取扱説明書」「未来年表」を作成しよう	授業内で指示
4	自分を知る②　「考える」「アイディア抽出」	授業内で指示
5	互いを知る①　観察する・傾聴する・共感する・質問する	雑誌等のインタビュー記事
6	互いを知る②　〈ペアワーク〉インタビュー実践	雑誌等のインタビュー記事
7	互いを知る③　〈ペアワーク〉インタビュー実践、記事編集	雑誌等のインタビュー記事
8	〈ワーク〉プレゼンの実践	授業内で指示
9	EQ（スチューデントEQ）と社会人基礎力	授業内で指示
10	〈グループワーク〉価値観の交換、相互理解	授業名で指示
11	〈フループワーク〉コンセンサス、ふりかえり	授業内で指示
12	〈グループワーク、ペアワーク〉アサーション、ふりかえり	授業内で指示
13	〈グループワーク〉チームビルディング、問題解決、ふりかえり	新聞を読む
14	生活と仕事を考える①　ライフサイクルと仕事、家族形態の変化	新聞を読む
15	生活と仕事を考える②　働くってどんなこと？　雇用	授業内で指示

成績評価	ワークショップへの参加意欲:30%/レポート:30%/スピーチ、発表:30%、自己評価:10%
テキスト	レジュメ・ワークシートを配布します。
参考書等	なし

学生へのメッセージ・履修上の留意点

ただ出席するだけでなく、自律的な参画・積極的な取り組みをしてください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
環境問題演習	1	選択	1年　後期	演習	森本 健一

授業内容	Think Globally, Act Locally（地球的視野を持ち、地域で行動する）略してGlocally（グロカリー）がテーマである。辰野町近傍の自然環境の特徴を学ぶとともに、日常生活における環境問題について、エネルギーとゴミ問題を考える。企業活動の環境保全活動（CSR）について理解を深めるとともに、各自の実践活動報告を行ってもらう。環境問題に関する用語理解を深めるとともに、ビデオ作品、地域環境マップ、絵本製作をはじめ廃油キャンドルなどエコに関する小物の制作をする。
授業方法	エデュクリック（参加型授業支援ツール）、視聴覚教材、パソコン等を活用し、主にエネルギーとゴミ問題について学習する。授業の最後にグループごと具体的実践行動の成果をプレゼンテーションしてもらう。
到達目標	各人が環境意識の変化を具体的行動に結びつけるために、基礎用語に習熟し情報収集能力を高めると同時に、自発的にライフスタイルを点検・変革し、発表できる水準を目指してもらう。

	授業計画	事前の学習（事後の学習は授業時に指示）
1	ガイダンス	このシラバスをしっかり読んでくること
2	学校林整備（雨天：環境問題重要語句学習）	地球環境問題重要用語（資料）を調べる
3	ライフスタイルと環境問題（スローライフとコンビニ、ファーストフード）	日常生活における環境問題を理解しておくこと
4	100円ショップ、フェアトレードについて	地球規模の貿易について調べておくこと
5	環境にやさしい暮らし方（おばあちゃんの知恵に学ぶ）	風土に合った暮らしを調べておくこと
6	養蚕業・製糸業を知る（1）	日本の近代化を推進した製糸業
7	養蚕業・製糸業を知る（2）	近代化産業遺産について調べること
8	ホタルと辰野町	辰野町をホタルのかかわりについて
9	松尾峡生息環境現地学習	ホタル育成の現場について調べる
10	昆虫・花を知ろう	主要な種類はしっかり覚えること
11	落ち葉利用技術	落ち葉の活用法について調べること
12	廃油アロマキャンドル制作	キャンドルのいろいろを調べておくこと
13	ＣＳＲ　レポート（企業環境報告書）の読み方	ネットでCSRのいくつかを調べておくこと
14	諏訪湖渡り鳥現地観察	生物の季節移動の意義を理解すること
15	環境問題実践活動報告	PPTに習熟し、完成度を上げること

成績評価	具体的実践行動（50%）、プレゼンテーション（20%）、毎授業時のまとめ・コメント（30%）で評価を定める。
テキスト	阿部治・野田健一『あなたの暮らしが世界を変える』（山と渓谷社）
参考書等	『環境がわかる絵本』　山と渓谷社 ＣＳＲ　レポート（企業環境報告書）　図書室に常備されている 講義資料を配付する

学生へのメッセージ・履修上の留意点

これからの地球の未来をさまざまな角度の環境問題視点から考える授業であるので、意欲的に学び、環境問題関連のニュースをしっかり捉え、地球の環境問題解決に貢献できる人間となってもらいたい。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
ボランティア活動	1	選択	1年　前期	演習	西澤 有喜子

授業内容	ボランティア活動の再構築となった「阪神淡路大震災」から20年が経ちます。 この講義では「ボランティア活動」を通じて、自分の中に潜在している「他人と関わり合って生きる力」を再認識し高めていきます。地域のさまざまな人々との出会いから生まれる「絆」を実感し、真摯な感覚と行動力を養っていきましょう。
授業方法	・「ボランティア活動とは何か」という講義中心ではなく実践活動中心の演習形式です。 ・「自分にできる事・やってみたい事」に着眼し、おおむね9時間程度のボランティア活動（フィールドワーク）を探り・計画し、実践で深めていきます。実際には辰野町周辺や各自の地元での活動が主で、数名のグループ活動で進める場合が多く、地域の方のサポートも大きな力です。
到達目標	1、ボランティア活動についての基本的な理解を得る 2、積極的かつ真摯にボランティア活動を行う態度が身につく。 3、「他人と関わり合って生きる」力を再認識し、社会人としてのスキルの幅を広げる。

	授業計画	事前の学習 （事後の学習は授業時に指示）
1	アイスブレイク→自己紹介・ボランティア活動の意義とねらい	特に必要ありません
2	ボランティア活動の実際を知る・辰野町の実践例など	必要があれば指示
3	自分がやってみたいボランティア活動を考える（GW）	必要があれば指示
4	ボランティア活動の実践計画に取り組む（GW）	必要があれば指示
5	活動計画の発表と修正→他の人の活動と相互補完	必要があれば指示
6	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
7	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
8	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
9	途中経過の中間報告・修正	必要があれば指示
10	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
11	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
12	実践活動（実際のフィールドワーク:FW）	必要があれば指示
13	ボランティア活動報告書の作成・報告会オリエンテーション	必要があれば指示
14	ボランティア活動報告書の作成・報告会準備	必要があれば指示
15	ボランティア活動最終報告会	必要があれば指示

成績評価	・講義及びフィールドワークでの実践意欲　50% ・中間及び最終報告会のプレゼンテーション　20% ・課題レポート（試験に代わるものです）　30%
テキスト	テキストは不要。必要に応じてワークシート・資料を用意します。
参考書等	個々のテーマに参考となる内容の資料は適宜紹介していきます。

学生へのメッセージ・履修上の留意点

・先輩方が辰野周辺などで、たくさんの活動の足跡を残してきてくださいました。活動は多々ありますが辰野ほたる祭り（前期）や諏訪湖マラソン（後期）などの地域イベントでのボランティア活動は　直接地域の方々と関わり達成感を得やすいです。地域の子育て支援活動や過疎集落での街づくり・美化活動などは「他人と関わる自分の力」を再認識できる喜びがあると思います。